

《診療の質》糖尿病患者の血糖コントロール

[項目解説]

HbA1c(ヘモグロビン・エーワンシー)とは赤血球の中で体内に酸素を運ぶ役目のヘモグロビンと、血液中のブドウ糖が結合したものであります。糖化ヘモグロビンともいい、血糖値が高いほどグリコヘモグロビンが形成されやすくなりますので、糖尿病の患者様では血液中に顕著な増加がみられます。血糖値は常に変化していますが、HbA1cは濃度が安定しています。

HbA1cの値を調べれば、過去1～2ヶ月の血糖の平均的な状態を知ることができ、血糖正常化を目指す際の目標値は6.0%未満、合併症予防のための目標値は7.0%未満、治療強化が困難な際の8.0%未満とされています。

[当院の実績]

・年度(基準年4月1日～翌年3月31日)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
糖尿病患者の血糖コントロール	55.1%	50.0%	52.4%	45.4%	57.3%

[算式]

$$\text{糖尿病患者の血糖コントロール} = \frac{\text{HbA1cの最終値が<7.0\%の患者}}{\text{HbA1c検査実施患者でインスリン製剤または経口血糖降下薬を処方されている患者}}$$

[当院の自己点検評価]

重症の患者さまも多く診療している実態を考慮すると、良好に血糖コントロールが行われていると考えられます。当院では「代謝・内分泌内科」が専門で糖尿病の診療を行っており、今後も他診療科との連携を充実させながら、糖尿病や合併症の診療に取り組んでいきます。

また、糖尿病教室などを通じて糖尿病についての理解を深めていただき、生活習慣の改善などにも積極的に関与することで総合的に病態のコントロールを行っていきたいと考えています。

[定義]

インスリン製剤か経口血糖降下薬を処方した糖尿病患者のうち、HbA1cの最終値が7.0%未満の患者割合